

【10月28日（月）朝礼講話】

少し前までは、夏のような暑さを感じ「いつまでこの暑さが続くんだろう」と思っていました。10月も終わりを迎え木々は少しずつ紅葉し、青空の色も青く澄んで、すっかり秋が来たことを知らせてくれています。

先日1年生の子に、「校長先生は、いつもどこにいるの？」と聞かれました。先生が授業をしている姿を見ないし、いつもいつも授業を見ているわけでもないし。とても不思議に思ったのでしょう。

先生は、学校にいるときは大体職員室か校長室にいます。または、みんなの授業の様子を見に行ったり、ホームページに載せる写真を撮ったり、学校の中や外に危険な場所がないか点検したりしています。出張があって学校にいないことも多くあります。

でも、先生は大体どこのクラスがどんなふうに過ごしているか、トラブルやけんかなどがあったかなどは知っています。それは、担任の先生たちが何かあったときには、良いことも悪いことも報告してくれるからです。でも校長先生は、先生方から聞く報告の中で、少し気になることがあります。

それは、友達とのトラブルの報告の中でよくあります。自分がトラブルのきっかけを作ったにも関わらず、「僕も悪かったけど、でもあの子だって……」とか「わざとやったわけじゃないもん」と言って、素直に謝ることができない子がいるということです。

トラブルは、何か原因があって起こります。友達が突然勝手に怒り出すなどということは、あまり考えられません。何か嫌なことをされたり、嫌な思いをしたりすることがあるから起こると思います。トラブルが起きた経過をしっかりとたどれば、トラブルになった本当の原因が分かります。

その時に、実際に自分の言葉や行動が相手の子に嫌な思いをさせたりしていることが原因だと分かったにも関わらず、「言ったのは自分だけじゃない」とか「僕も悪かったかもしれないけど、あの子だって……」と言い訳をする子がいます。とても残念なことです。

「自分だけじゃない」と言いますが、言ったりやったりした事実は事実なのです。自分が判断し、行動してしまったのです。まずはそこをきちんと認めるべきです。他の子のことは別問題です。

「わざとやったわけじゃないもん」ですが、わざとではなくても、やったということは事実なのです。「でも、あの子だって……」それも、原因を作った自分の言葉や行動がなかったら起こらなかったことです。

これらはすべて問題をすり替えているだけです。それに気付いてほしいと思います。

みなさんは、学校だから、子どもだから守られているところがたくさんあえます。しかし、一歩外に出たら、その行動が警察にお世話になるようなことに発展したり、訴えられて裁判にかけられたりすることにもなりかねないのです。

また、大人に対する言葉や行動も同じです。相手が先生だから、大人だから許されるということはないのです。先生たちだって、みんなの言葉や行動でいやな思いをしたり、心が傷ついたりするのです。家族だって同じです。

自分がとった行動で、言ってしまった言葉で、相手が傷ついたりトラブルになったときに、まずは正直にそれを認めること、そしてきちんと「ごめんなさい」と謝れることが、一番勇気が必要であり大切なことです。自分自身の言動から目をそらさず、きちんと人として間違ったときには謝れる人になって欲しいと先生は思います。

また、先生のところに「授業中私語をする子がいて、授業に集中できなくて困っている」と相談に来る子もいました。授業中友達と私語をしたり、うるさくすることは、「授業を受けたい人の権利を奪っている」ことです。自分だけの問題ではなく、他の人にも大きな迷惑をかけていることにしっかりと気付いてほしいです。そしてそのような状態になったときに、クラス全体がお互いに注意し合える、きちんとした正しい判断ができる集団であって欲しいと思います。人として成長できる草平っ子になりましょう！